

ケニアにおける地球地図のニーズ

ケニア測量局局長 A. K. ジュキ



地球地図ニューズレターの本号に、地球地図プロジェクトへのケニアの関わりについて、地球地図国際運営委員会より出筆を依頼されたことを光栄に思います。ケニア測量局は、開発や計画作成、管理に必要な様々な種類の地形図の作成、維持の責任を有する測量・地図作成機関です。本局は、ケニア全土について47枚から成る縮尺25万分の1の地図を作成しました。国土の63パーセントについて縮尺5万分の1の地図が作成されています。国の中央部、西部、南西部、南部の農耕可能な地域について、523枚地図が作成されています。北西部、北東部、東部の乾燥、半乾燥地域について縮尺10万分の1の地形図が作成されています。

ケニアは、地球地図国際運営委員会(ISCGM)の委員を、その創設時より務めております。これは、地球環境問題の情報の入手を促進する、データの収集、処理、配布において、地球地図プロジェクトの重要性を認識し、プロジェクトが実施されたときに生まれる利点を考えるからです。

ケニア測量局は、全土について、縮尺100万分の1と125万分の1の地図を作成しました。この地図は、地球地図の作成に必要な、標高、植生、土地利用、水文、交通網、行政界についての空間データを提供します。本局では、測量・地図作成作業のコンピュータ化が完全には行われていないので、ケニアは地球地図プロジェクトにレベルCで参加しており、地球地図の取り組みで利用するために、適当なデータの整備ができるレベルAの国家地図作成機関と協力する用意があります。

地球地図ができると、私たちやアフリカ諸国にとって大きな利用価値があります。私たちが直面する大きな挑戦の一つは、貧困の撲滅です。ケニアは、貧困の軽減を、経済力のある繁栄する国家の建設のための鍵となる要素と明言しています。国連事務局によりますと、貧困は、人類の道徳的、社会的、政治的、経済的に避けられない課題であり、その運動は、環境、食糧の安全性、人口問題、人口移動、保健、住居、人材育成、きれいな水、公衆衛生、農村開発など、分野ごとの戦略の概念のなかで取り込まれなければなりません。これらの分野における正確で、きちんと整えられた情報の不足は、私たちの天然資源や環境の監視についての適切な計画作成や管理の妨げとなる主な要因であると証明されています。

アジェンダ21実施のための環境と開発に関する国連会議で、持続可能な開発を促進するためには、生活を支えるための能力を損ない、もしくは高めるであろう過程を含む地球の扶養能力について、より広範囲な知識が必要とされると確認しました。持続可能な開発を成就するためには、総合的扶養能力を有する最も重要な資源である農業と林業の開発、私たちの鉱物資源の利用、効果的な水の監視、社会基盤網の強化のための方策を立てなければなりません。これらの資源は、これらの管理作業が実施されるであろう地域の良質な地理によってのみ管理され、空間的広がりを持つこの情報は地図によってのみ効果的に表されます。

貧困を撲滅し、環境と持続可能な開発に関するアジェンダ21の勧告を実施するためには、天然資源と環境管理に必ず利用される空間に関するデータの保管、管理、解析を行うために、地図は必要とされます。地球地図は、このような地図であり、災害や環境への障害の軽減に係わる国際社会の政策決定者や研究者にとっても便利な道具となるでしょう。また、地球の生態系の天然資源の状況や傾向を示す環境データを地球規模で提供し、異なる国の間に存在するデータの有効性、質、一貫性、標準化、利用における隔たりを少なくするでしょう。これは、環境

と持続可能な開発に関する情報に基づく各国の意思決定の能力を高めるでしょう。

私たちケニアでは、人口増加の結果劣化し枯渇してきた天然資源の開発を促進する必要性を認識しています。私たちは、社会経済の発展を刺激するために、環境への障害を軽減し、食糧の安全性についての早期警戒システムを整備し、生物の多様性を評価する方策を確立しなければなりません。地球地図ができると、これらの方策の策定を促進し、私たちの天然資源や私たちの環境の監視管理の促進、改善となるでしょう。

ケニア測量局は、地球地図プロジェクトへ参加し、プロジェクトを支持することによって、衛星画像の利用をとおして地図の改訂頻度を増やし、その結果、意思決定者、計画策定者、環境保護家、研究者にとって最新の地図やデータの入手が可能になるであろう数値地図作成の世界に案内されることを希望します。

ケンブリッジ会議における地球地図セッション



ケンブリッジ会議は、1999年7月19日～23日まで、英国、ケンブリッジ市のセント・ジョンズ・カレッジで開催されました。本会議はオードナンス・サーベイの主催による国家地図作成機関のための地球規模の会議です。会議のテーマは、「変換期の国家地図作成：地球規模のテクノロジー、政策、実践」でした。73ヶ国から約232名が参加し、今日ほとんどの国家地図作成機関が直面する共通の問題について議論しました。会議は9つのセッションから成り、水曜日の午前のセッションは、米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授のジョン・E・エステス教授が座長を務め、日本国国土地理院長の城処求行氏が主催する地球地図のためのセッションとして運営されました。

セッションの最初に、4人が論文を発表しました。それらは、城処求行氏の「地球環境問題のための地球地図の必要性」、スウェーデンのIGBP(地球圏・生物圏国際協同研究計画)のウィル・ステファン博士による「全地球土地被覆：動的で長期的なデータベースの必要性」、USGS(米国地質調査所)のK.エリック・アンダーソン博士による「災害の減少と軽減のための全地球地理空間データの利用」とオーストラリア産業科学資源局のドゥルー・クラーク氏による「地球地図のGSDI(全地球空間データ基盤)への貢献」でした。エステス教授は、OHPを使い、参加者に地球地図の重要性を力説しました。

発表の後で、活気のある討論がなされました。地球地図は、本質的に、科学の世界や産業界などの将来のデータ利用者に賞賛されました。未参加の国家地図作成機関も地球地図の重要性を認め、参加の可能性について真剣に検討しています。セッションのなかで数ヶ国が参加を表明しました。

地球地図は、地球環境問題の研究のみならず、ハリケーン、火山の噴火、地震などの災害にも有効であることが認識されました。

プロジェクトへの参加を正当化するためには、自国にとっての短期的、長期的な利点に基づく説得力のある理由が必要であるという問題を提起する国が、特に、小さな島国のなかにもありました。

一方で、GIS(地理情報システム)の民間企業が地球地図を基礎的な地理空間データであるとして興味を示し、関連の事業の可能性を求めます。

本セッションは、非常に盛大であり、さらに議論をするために、土曜日に第6回ISCGM会合を行うことが発表さ

れました。

第6回地球地図国際運営委員会会合

地球地図国際運営委員(ISCGM)の第6回会合が、オードナンス・サーベイの主催で、ケンブリッジ会議に引き続き、1999年7月24日に英国ケンブリッジ市のセント・ジョンズ・カレッジで開催されました。

世界中の国家地図作成機関の首脳が多数集まるケンブリッジ会議の機会をとらえて、ISCGMは、できる限り多くの参加者を招待し、その結果60名以上の参加を得ました。

米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校のジョン・E. エステス教授が委員長に再任されました。アブドゥル・マジブ・ビン・モハメド氏が副委員長、秋山實が事務局長、村上広史が事務局次長に指名されました。ICA(国際地図学協会)のマイケル・ウッド博士とUNEP(国連環境計画)のダニエル・クラーク氏が顧問として紹介されました。国連の勧告状により地球地図プロジェクトの正式な参加登録を開始して以来最初の会合となりました。委員長が会合の最初に、地球地図の重要性について、ことに新しく参加した国や参加見込みの国の代表のために講演しました。その後、事務局とワーキンググループの活動が報告されました。地球地図の参加国は、その日の時点で66ヶ国と報告され、36ヶ国が検討中です。そのほか、会議中に4ヶ国が参加を表明しました。ヨーロッパ諸国の参加は、9月のCERCOの会合で討議されることが発表されました。

地球地図ではデータ政策が重要であるにもかかわらず、ワーキンググループ3は活動的ではありませんでした。CERCOがこのワーキンググループを主導し、活性化させることができるという発言がありました。

レベルAとCの参加国間の引き合わせについて、国どうしの助け合いについては、豊かな歴史があることが言及されました。従って、レベルC国が、特定のレベルA国と共同作業を希望する場合は、事務局に連絡することが期待されます。

本会合で討議されたその他の議題は、地球地図プロジェクトの実施における報告と監督の方法、地球地図プロジェクト第2版のための戦略、産業界との協力等でした。

次回の会合は、GSDI(全地球空間データ基盤)の会合の直後の2000年3月16日にケープタウンで開催される予定です。



地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

“*”マークの会合は後日確認され、“?”マークの会合は未確定です。

1999年

- 9月27日～28日、イタリア、フィレンツェ
CERCO総会
- 9月29日～30日、日本、京都
第9回ISO/TC211本会議
- 10月18日～22日、ポルトガル、リスボン
第16回南米、スペイン、ポルトガル地理機関局長会議
- 11月1日～5日、オーストラリア、フリマントル
第6回東南アジア測量士会議
<http://www/isaust.org.au/40thcong/index.htm>
- 11月8日～12日、グアテマラ、グアテマラ市
1999年汎アメリカ地理歴史機関 - PAIGH1999会議

2000年

- 3月9日～10日、南アフリカ
第10回ISO/TC211本会議
- 3月13日～15日、南アフリカ、ケープタウン
第4回GSDI会議
- 3月16日、南アフリカ、ケープタウン
第7回ISCGM会合
- 3月27日～31日、南アフリカ、ケープタウン
第28回環境リモートセンシング国際シンポジウム
- 4月11日～14日、マレーシア、クアラルンプール?
第15回UNRCCAP
- 7月14日～26日、オランダ、アムステルダム
第19回ISPRS会議
- 9月28日～29日、米国

2001年

- 3月～4月、ポルトガル *

第12回ISO/TC211本会議

- 4月、コロンビア

第5回GSDI会議

- 4月、コロンビア

第8回ISCGM会合 *

[本号のニュースレターの先頭 に戻る](#)

[地球地図ニュースレター目次 に戻る](#)

・/FONT>